

障がいのある人も暮らしやすい町に

～学校、企業の積極参加による地域文化の醸成～

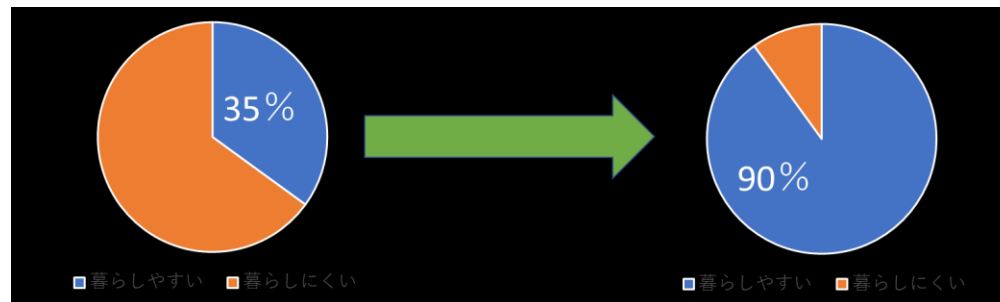
➤ やりたいこと

障がいのある人も暮らしやすい町にする

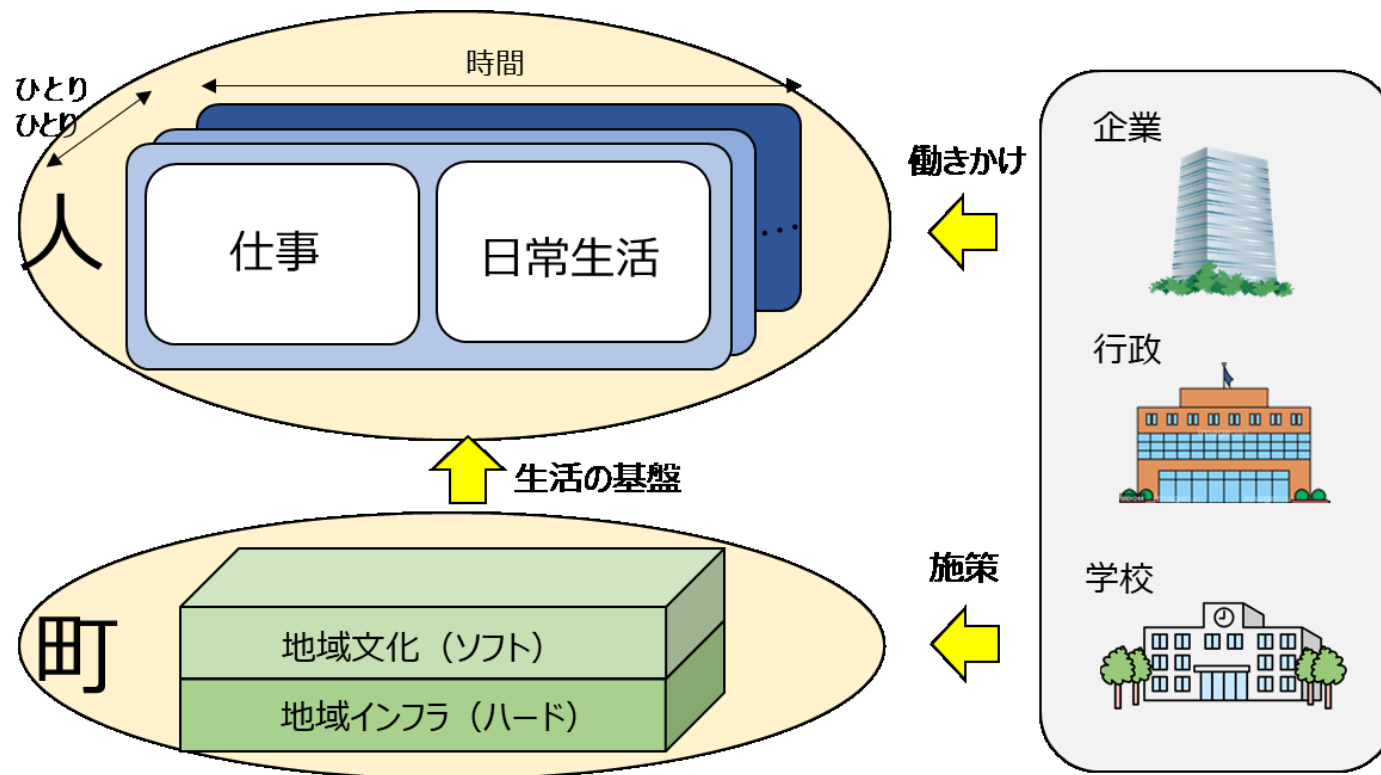
➤ その理由

宇部市 S D G s 未来都市計画 ゴール 1 0

- ✓ 障害のあるなしにかかわらず、安心して暮らすことのできる社会の実現を目指す。



実現のためのフレームワーク



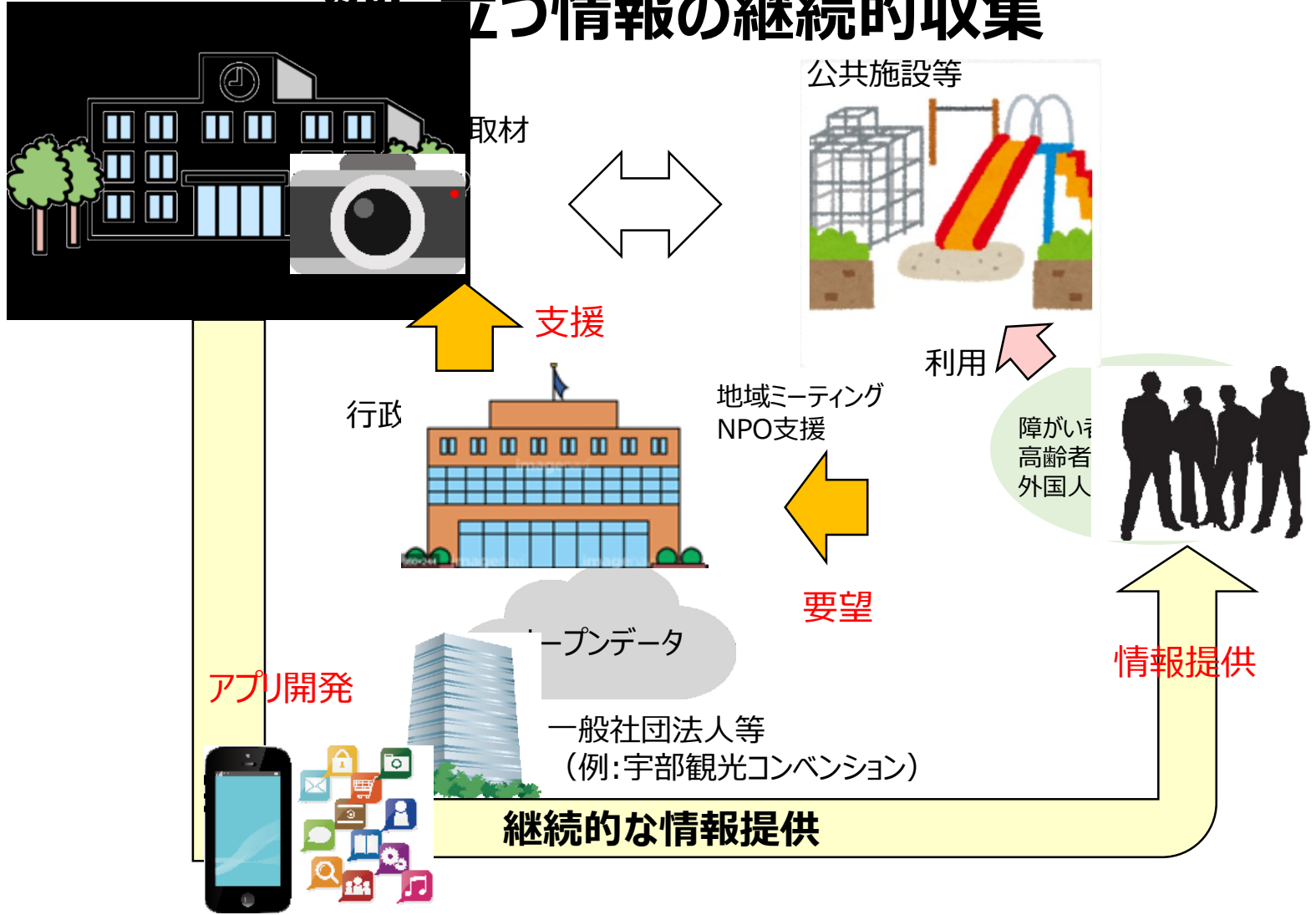
1. 人は、仕事と日常生活のどちらも大切な生活の要素。一人一人の個性があるようにみんな違う。
2. 町は、ハード面とソフト面で構成され、一人一人の生活を支えている。
3. 人と町は、企業・行政・学校などの働きかけや、施策で変化していく。

個々の「人」に対して、日常生活面、仕事面で3つの取り組みテーマを実施

対象	取り組みテーマ	具体策
日常生活	バリアフリー状況の調査とオープンデータ化 ①	<p><公共施設></p> <p>(1)役に立つ情報の継続的収集 学校教育でのバリアフリーの実況調査、データ収集（継続授業）</p> <p>(2)継続的な情報提供 一般社団法人などのWebサイトでの情報提供。アプリ提供による利便性の実現</p> <p><民間施設（飲食店）></p> <p>(3)バリアフリー情報精度向上 大手グルメサイトへのバリアフリーについてのデータ項目追加依頼</p> <p>(4)役に立つ情報の継続的収集 学校教育での実況調査、データ収集</p> <p>(5)障がい者、地域の課題再認識 従来の地域講座に学校（特に高校、専門学校、大学）での活動を追加。 障がい者に対する認識、地域課題の認識を深める</p> <p>(6)地域+ネットからの受注 クラウドソーシングを積極的に使い、雇用を創出する。</p> <p>(7)在宅勤務の拡大と障がい者向けITトレーニング チームで仕事を受け入れられるよう、在宅勤務とITトレーニングの実施</p>
	SDGs 教育の徹底（障がい者への理解促進教育） ②	
仕事	IT（リモートアクセス、クラウドソーシング等）を使った働き方改革 ③	

① バリアフリー状況の調査とオープンデータ化

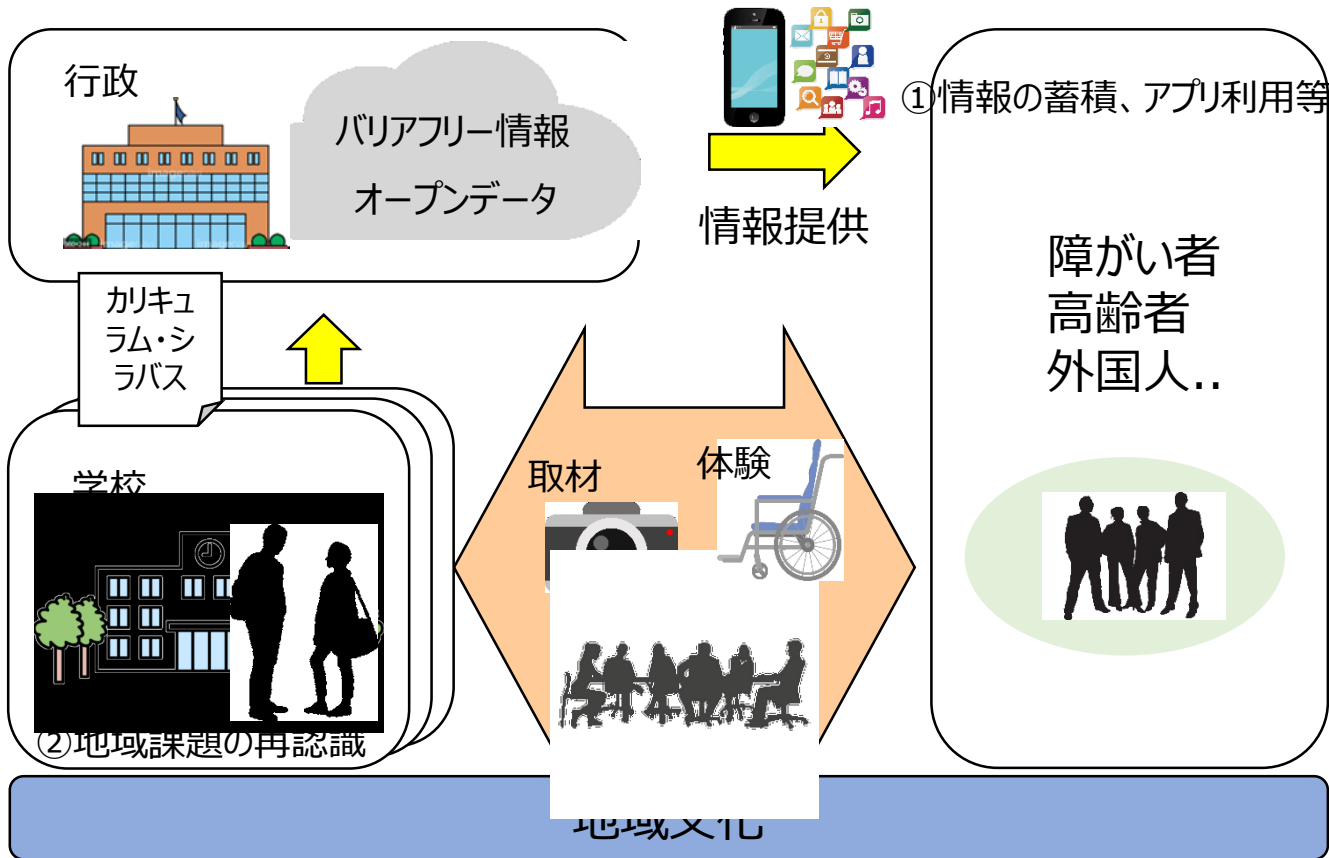
役に立つ情報の継続的収集



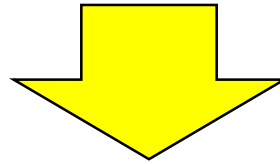
②SDG s 教育の徹底

- ①情報の蓄積ができて、様々な手段で情報利用が可能となる
- ②繰り返しの教育によって、障がい者、地域の課題の再認識が広まる

➡ 障がい者の理解が、地域文化として根付く



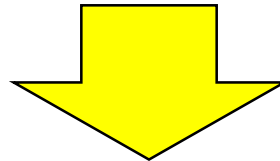
課題：「障がいのある人も暮らしやすい町にする」



バリアフリー状況の調査
とオープンデータ化

SDG s 教育の徹底
(障がい者への理解
促進教育)

IT (リモートアクセス、
クラウドソーシング等)
を使った働き方改革



障害のあるなしにかかわらず、安心して暮らすことのできる社会の実現を目指す